



あきほ

A K I H O

2018年 夏

vol. **38**

ご自由にお持ち
ください。

特集

地域医療連携推進法人 「日本海ヘルスケアネット」の めざすもの

- P4 ● 臨床研修を振り返って
- P5 ● 私の仕事紹介リレー 総務課施設係
- P6 ● 70歳以上の方の高額医療費の上限額が変わります
 - 産婦人科からのお知らせ
- P7 ● 医師異動
- P8 ● 職員採用試験受験案内
 - サマーセミナーを開催します
 - 表紙のひと・こと





特集

地域医療連携推進法人

『日本海ヘルスケアネット』のめざすもの

当病院機構を中心に、市内の9法人が参加して設立した「日本海ヘルスケアネット」が、4月1日に県知事から「地域医療連携推進法人（代表理事 栗谷義樹）」として認定されました。この耳慣れない「地域医療連携推進法人」とはどういうものか、そして「日本海ヘルスケアネット」は何をめざしているのか、についてお話しします。

時代背景

まず地域医療連携推進法人という新しい制度ができた時代背景です。わが国は、2025年に、約800万人いる団塊の世代が75歳を迎え、国民の4人に1人が75歳以上という超高齢化社会へ突入します。そのための医療・介護・福祉サービスの整備が急務である一方、それを支える社会保障費の急増が避けられず、財政が持ち堪えられるのか懸念されています。また、医療・介護・福祉現場の人材不足は、現在すでに大きな問題になっています。

その対策として政府は、急性期から回

復期・慢性期まで、限りある医療資源を効果的かつ効率的に配置することをめざして「地域医療構想」を進めています。それを実現するためのひとつの選択肢として創設されたのが、「地域医療連携推進法人」の制度です。

「地域医療連携推進法人」制度の概要

これまで医療機関は、それぞれの運営主体が、独自の経営方針、経営計画を立てて経営してきました。地域の医療機関同士は、競合することも多く、良い意味ではお互いに切磋琢磨して医療サービスの向上に努めてきました。その反面、医師不足にも関わらず近くの病院にも同じ診療科があったり、経営が苦しいのに無理をして同じような高額な医療機器を購入したり、地域全体の医療資源という観点からすると、非効率な結果になっていることも多々ありました。それでもこれまでは何とか運営できました。しかし、これからは少子化と超高齢化が同時に進行する社会を迎え、国の財政が年々厳しくなり、診療報酬、介護報酬

の切り下げが予想されます。このままでは、どの病院も維持が困難になり、体力のない病院から脱落していく、あるいは地域に必要な医療を提供できない状況になる恐れがあります。

それを回避するためには、経営を病院単体で考えるのではなく、地域の複数の医療機関が緊密に連携し、共存が可能な形で運営していく必要があります。

そこで今回制度化されたのが地域医療連携推進法人です。病院、施設それぞれが運営主体はこれまで通り独立したままですが、ひとつの法人のもとで統一した方針で緊密に連携することで全体最適化、効率化を積極的に図り、中長期的に継続できる地域の医療体制を作っていくこととするものです。

地域医療連携推進法人は、非営利であり、公益性の高い運営が求められています。運営にあたっては、連携推進区域を定め、統一的な連携推進方針を作り、これをベースに業務を実施します。また、各参加法人は、自らの事業計画や重要な事項を決定する時には、地域医療連携推進法人の意見を聞かなければなら

ないことになっています。この意見には強制力はありませんが、各参加法人の事業計画が連携推進方針を踏まえたものになると期待されます。

設立までの経緯

庄内地域の人口推計予測では、2015年の約28万人から2030年までの15年間で5万人強が減少します。更に次の15年間でも同じ位減少し、2045年には、約17万人になるとされています。当病院機構は、平成20年に県立日本海病院と市立酒田病院が統合して以来、経営的には順調に推移してきました。しかし、こうした過疎化や国の厳しい財政状況を考えると、現在のままでは病院の経営が成り立たない時代がいずれやってくると考えていました。そうした危機感を持った庄内の2つの病院と定期的に勉強会を開催し、連携のあり方を模索していました。そのような中で、地域医療連携推進法人の制度ができたので、具体的に取り組むことにしました。



日本海ヘルスケアネット推進室

室長 菅原 司

平成28年から酒田市内の5つの法人で何度も検討を重ね、最終的には9つの法人が参加することになりました。名称は、連携の中心になるのが日本海総合病院であること等を考慮し「日本海ヘルスケアネット」としました。連携推進区域は、地域医療構想の区域である庄内5市町としています。

日本海ヘルスケアネットの特徴

この制度は、平成29年4月から施行され、全国では当法人を含め現在6つの地域医療連携推進法人が設立されています。

日本海ヘルスケアネットの特徴は、病院、老人保健施設、老人介護施設等を運営する医療法人、地方独立行政法人、社会福祉法人、更には医師会、歯科医師会、薬剤師会など、地域の医療、介護を支え

る幅広い法人が参加していることです。病院は、急性期、回復期、療養期、それに精神科の病院も参加しています。このように地域の医療、介護のほぼ全ての分野の法人が参加しているのは全国でも例がなく、大変注目されています。

今後の取り組み

日本海ヘルスケアネットが考えている事業は、左のとおり多岐に渡っています。人工透析等の診療機能の重点化・集約化、看護師等の医療従事者の人事交流など、すでに取り組み始めた事業もあります。医療、介護の分野は、法律や規則で非常に細かく規制されているので、連携推進事業を進める時には、法的問題がないか、本当に効果があるのか、ひとつひとつ確認しながら進める必要があります。

住民の方へのメリット

地域医療連携推進法人は、運営の仕組みなので、直接的に目に見えることは少ないかもしれません。ひとつの具体例としては、かかりつけ医、急性期病院、回復・療養病院、介護施設間の連絡が格段に良くなることで、転院や施設入所の手続き等の負担が軽減されることを考えられます。

また患者ＩＤや電子カルテ、検査結果の共有化ができれば、患者さんの側から見て、複数の医療機関、診療所、薬局等をあたかもひとつの医療機関のように利用できることが期待できます。しかし何と云っても住民の方にとって最大のメリットは、地域の医療・介護・福祉の体制が、将来も良い状態で安定して確保できる地域に暮らすことができる、ということだ

と思います。当病院機構は、地域の医療に果たす役割が大きいことから、自ら運営する病院、診療所だけではなく、地域の医療、介護体制全体についても責任があると考えます。地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」に皆さんのご支援をお願いします。

検討・実施予定の主な連携業務

医療需要に対応した病床規模の適正化

- 過剰が見込まれる一般病床を削減
- 不足が見込まれる療養病床を確保

持続可能な病院及び施設経営（経営効率化）

病院・施設単独型から地域連携型の経営へ転換

- 効率的な機能分担
- 診療機能の重点・集約化
- 地域の医療需要に対応した業務量の調整
- 高額医療機器の効率的配置・二重投資回避
- 薬品・診療材料の共同交渉
- 委託業務のまとめ発注

地域医療介護を支える人材の確保と充実

- 医療従事者の人事交流
- 医療・介護従事者等の共同研修等

地域包括ケアシステムの構築

- 医療・介護・福祉の切れ目のないサービスを提供
- 退院調整ルール作成
- 在宅療養患者等の医療提供体制、看取り体制の整備
- 医療ニーズに対応した在宅医療提供体制の構築
- 病診連携・医療介護連携を一層推進
- ICT（情報技術と通信技術）活用による患者情報の共有化、利便性、効率性の向上
- クリティカルパス（入院診療計画書）の利用施設、対象疾患の拡大

日本海ヘルスケアネットイメージ

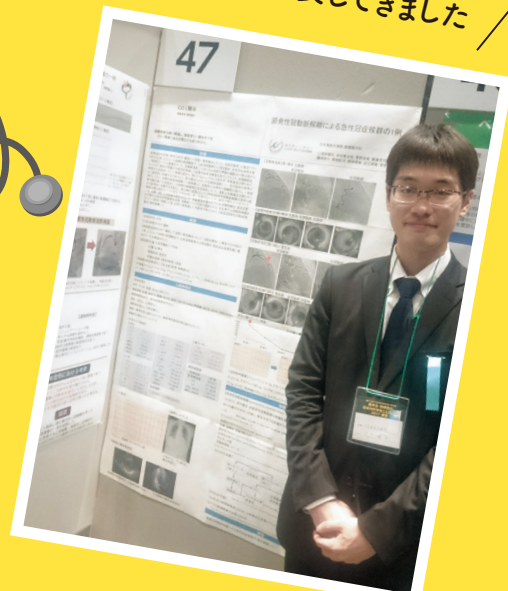


臨床研修を 振り返って

内科専攻研修医 須田 健生

酒田市出身、酒田東高校卒業後、青森県弘前大学医学部へ進学、卒業後は日本海総合病院に臨床研修医として就職しました。現在は消化器内科医をめざし、内科専門医プログラムにて専攻医（後期研修医）として従事しております。

私が2年間の研修を通して感じたことなどを簡単に書かせていただこうと思います。



学会で発表してきました

研修医生活について

研修医は臨床研修（初期研修）2年、そして専門医プログラム（後期研修）があります。当院では初期研修医1年目2年目合わせて20名ほどの研修医がおり、それぞれが各科をローテーションして研修を行い、日々切磋琢磨しながら従事しております。内科系研修では毎日朝回診を行い、その後は検査や日々の業務を行います。外科研修の際には、毎日回診時に処置を行い、その後は手術に入ります。基本的には第2助手となることが多いですが、手術の執刀をすることもあり、貴重な経験をさせていただきました。そして研修医は月に数回程度、夜の救急当直や休日の日直があり、救急車の対応から歩いて救急外来を受診される方まで、様々な重症度の患者さんを診察します。また、各診療科の当番を指導医と共に受け持つこともあります。日々の業務で深夜まで病院に残ることもあり、研修医室のソファで仮眠を取りながら夜が明け、次の日の業務が始まることもありました。不出来ながらも指導医の先生方には厚く指導して

いただき、毎日勉強と反省を繰り返す日々でした。

また、当院は学会等への参加、発表も活発に行っており、2年間で4回ほど学会発表をさせていただきました。特に消化器内科では、海外の学会にも参加する機会もいただき、最先端の知識を学ぶだけでなく、国内の学会との違いも知ることができ、大変勉強になりました。

また、当院の研修は、那覇市立病院と連携しており、外部の地域研修を行うことができます。外部研修では、他病院の研修医とお互いに知識を共有したり、また他病院の先生方から指導していただいたり、新たな刺激を得ることができ、とても貴重な経験ができました。そして那覇市立病院からも当院へ研修に来ていただける研修医の先生もおり、お互いに学ぶことができ、とても良い経験になったと思います。

日本海総合病院で2年間研修し、多くのことを学び、勉強させていただきました。まだまだ未熟な身ですが、少しでも患者さんの手助けになればと思い、これからも頑張っていきたいと思います。



臨床研修修了証をいただきました

※臨床研修医（初期研修医）

→日本では医師免許取得後、基本的な診察能力を習得するため、臨床研修指定病院等で臨床研修（初期研修）を受けることが義務付けられています。研修は2年に渡り、救急科、小児科、外科など特定の分野を回ります。この2年間の研修を受けている最中の医師を「臨床研修医（初期研修医）」と呼びます。

※専攻医（後期研修医）

→臨床研修終了後、専門の診療科へ進んだ、医師免許取得後3年目以降の医師。

私の 仕事 紹介リレー

日本海総合病院
総務課施設係

主任
阿曾 亮介



〈自己紹介〉

日本海総合病院総務課施設係 阿曾亮介です。大学では建築を学び、卒業後、建設会社で施工管理等の経験を経て、平成26年から日本海総合病院に入職し、施設係として5年目となります。

私は医療業界以外から来た、いわば門外漢ではありますが、だからこそ見えること、感じることを大切に、日々の業務を行っています。

これまで、顧客・発注者・受注者・上司・先輩・後輩・協力業者等、様々な立場で多くの方々からたくさんのごことを学び、経験してきました。それらを活かし、日々新たな経験ができる今の仕事が一番面白いと感じています。

〈病院施設について〉

当院は、患者さんや職員等も含め、一日の利用者数が3,000人を超え

る施設です。また、救急告示病院・災害拠点病院である当院は、ヘリポート

等の特殊な設備も多く、利便施設としてテナント等も入り、病院機能だけでなく、いわばホテルや工場等を組み合わせた複合的機能も有しています。

病院として365日24時間稼働しているため、設備を含む建物への負荷が高く、平成5年の竣工以来築25年が経過し、建物自体の老朽化も進んでいることも確かです。

設備的な機能が正常に働かないと医療業務に支障をきたすと共に病院としての役割を果たせなくなるため、病院施設の安全性及び品質確保、効率的な運用が重要な業務となっております。

〈施設系の業務〉

大きく3つあります。1つ目は、施設の維持保全です。設備等の機能維持のための点検・清掃、不具合の発生し

た設備等の修繕・更新、エネルギー管理等といった内容です。2つ目は施設整備です。利便性向上のための改修、運営戦略に迅速に対応した施設整備を行っています。3つ目は、防犯防災に係る業務です。警備、消防、災害対応等があり、毎年避難訓練等を行っています。その他にも院内PHS、職員宿舍管理等多岐に渡り、最近ではホスピタルアートやクラゲの展示、院内催事の企画、広報誌等の様々な業務を行っています。

〈私の担当業務〉

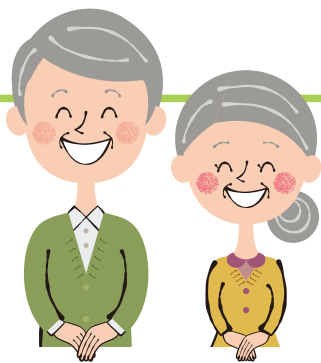
主に施設整備と維持保全に関する業務です。維持保全では、中長期修繕計画を策定し、計画的に設備等の更新を行っています。また、現在工事中の放射線治療棟整備事業においては、基本計画の策定から設計・工事の発注・監督業務等までを担当しています。さらに、係以外の業務としては、日本赤十字救護班員として訓練等にも参加しています。

〈今後について〉

病院施設は、特殊性・専門性が高く、提供する技術者側からそれを利用する利用者側から

も相互の関連性がわかりにくく、伝わりにくいものです。私は、自分自身の経験を踏まえ、自分の専門領域や得意分野のみに専念していくだけでなく、そこに集まる人々に共感される空間を作りあげていくために提案・行動していくことも大切であると考えています。今後も患者さんに安心・信頼して病院施設をご利用いただけるよう、また医療従事者が高度な医療を提供できる病院であり続けるよう施設管理を行うと共に地域の方々に親しまれる病院づくりの取組みを実行していきます。





70歳以上の方の高額療養費の上限額が変わります

高額療養費制度は、家計に対する医療費の自己負担が過重なものとならないよう、医療費の自己負担に一定の歯止めを設ける仕組みです。

平成30年8月から、70歳以上の方の上限額が次の表のように変わります。

現役並み所得区分については細分化した上で限度額が引き上げられ、一般区分については外来限度額が引き上げられました。

○見直し前(平成30年7月診療分まで)

適用区分		外来 (個人ごと)	ひと月の上限額 (世帯ごと)
現役並み	年収約1160万円～ 標準報酬月額83万円以上 課税所得690万円以上	57,600円	80,100円 +(医療費-267,000)×1% <多数回44,400円 ※2>
	年収約770万円～約1160万円 標準報酬月額53～79万円 課税所得380万円以上		
	年収約370万円～約770万円 標準報酬月額28～50万円 課税所得145万円以上		
一般	年収156万円～約370万円 標準報酬月額26万円以下 課税所得145万円未満(※1)	14,000円 年間上限 14万4,000円	57,600円 <多数回44,400円 ※2>
低所得者	Ⅱ住民税非課税世帯	8,000円	24,600円
	Ⅰ住民税非課税世帯 (年金収入80万円以下など)		15,000円

○見直し後(平成30年8月診療分から)

外来 (個人ごと)	ひと月の上限額 (世帯ごと)
252,600円+(医療費-842,000)×1% <多数回140,100円 ※2>	
167,400円+(医療費-558,000)×1% <多数回93,000円 ※2>	
80,100円+(医療費-267,000)×1% <多数回44,400円 ※2>	
18,000円 年間上限 14万4,000円	57,600円 <多数回44,400円 ※2>
8,000円	24,600円
	15,000円

※1 世帯収入の合計額が520万円未満(1人世帯の場合は383万円未満)の場合や、「旧ただし書所得」の合計額が210万円以下の場合も含まれます。

※2 過去12か月以内に3回以上、上限額に達した場合は、4回目から「多数回」該当となり、上限額が下がります。

(出典)厚生労働省HP

不明な点や相談のご希望がありましたら、日本海総合病院1階エントランスホールにあります医療・福祉センターへお尋ねください。

ファミリールームができました！

3階東病棟に、妊婦さんがご家族とご利用できるファミリールームが完成しました。お家にいる時のようにゆったりと過ごしていただけるような空間となっています。ご希望の方は産婦人科外来スタッフへお声掛けください。
※ご利用状況によりご希望に添えることができない場合があります。

ゆったりとお過ごしください！



産婦人科
からの
お知らせ

夕方の妊婦健診をはじめました！

平日の日中にお勤めされている妊婦さんのために、毎週月曜日の夕方に妊婦健診を開始しました。予約制ですので、ご希望の方は産婦人科外来受診時に受付へご相談ください。
※ご希望いただいた場合でも、母体等の状態により医師が夕方の健診に適さないと判断した際は、ご希望に添えることができない場合があります。
(健診受付時間)午後4時30分～午後6時
※祝日及び年末年始の外来休診日(12/29～1/3)は受診できませんのでご注意ください。





医師異動

転入者

日本海総合病院

①前任地 ②趣味・特技

H30/5/1現在

 内科 鈴木 琢磨 ①東北大学 ②漕艇・スキー・釣り	 内科 古山 広大 ①山形大学医学部附属病院 ②登山・茶道	 内科 大山みどり ①山形大学医学部附属病院 ②ピアノ・おつまみ研究	 内科 阿部 一輝 ①東邦大学医療センター 佐倉病院 ②スポーツ・旅行
 内科 太田 隆仁 ①山形大学医学部附属病院 ②スポーツ観戦	 循環器内科 佐藤 陽子 ①鶴岡協立病院 ②食べ歩き	 循環器内科 門脇 心平 ①東北医科薬科大学病院 ②コーヒー	 消化器内科 石澤 哲也 ①山形大学医学部附属病院 ②旅行・読書・映画鑑賞・音楽鑑賞
 消化器内科 作田 和裕 ①山形大学医学部附属病院 ②ドライブ・音楽鑑賞	 消化器内科 中村 秀平 ①鶴岡市立荘内病院 ②ドライブ・NBA観戦	 神経内科 佐藤 大祐 ①山形大学医学部附属病院 ②弓道・靴磨き	 小児科 上村 雄太 ①山形大学医学部附属病院 ②ヨット
 外科 伊東 賢 ①東北大学病院 ②アクアリウム	 乳腺外科 菅原 恵 ①埼玉県立がんセンター ②水泳・テニス・演劇鑑賞	 整形外科 川路 博之 ①山形済生病院 ②庭いじり・芝刈り	 整形外科 菅原 裕史 ①山形済生病院 ②ゴルフ
 整形外科 岡田宗一郎 ①酒田市立八幡病院 ②テニス・ピアノ	 整形外科 金谷 篤 ①山形大学医学部附属病院 ②温泉	 産婦人科 佐藤 藍 ①山形大学医学部附属病院 ②お菓子作り	 泌尿器科 高井 諭 ①公立置賜総合病院 ②サッカー
 泌尿器科 伊藤 英 ①山形大学医学部附属病院 ②読書	 耳鼻咽喉・頭頸部外科 佐藤 邦広 ①新潟県立中央病院 ②ゴルフ・スキー	 耳鼻咽喉・頭頸部外科 齊藤 彰子 ①山形県立新庄病院 ②バスケットボール	 耳鼻咽喉・頭頸部外科 佐藤 海 ①公立置賜総合病院 ②ビリヤード
 放射線科 新野 一穂 ①山形大学医学部附属病院 ②観劇・和装	 初期研修医(2年次) 赤羽根綾香 ①山形大学医学部附属病院 ②スポーツ観戦	 初期研修医(1年次) 池田あかり ①山形大学 ②アイドルの応援	 初期研修医(1年次) 市川 翼 ①山形大学 ②テニス・ドライブ・読書
 初期研修医(1年次) 今井 洋汰 ①自治医科大学 ②バスケ・旅行・ダイビング	 初期研修医(1年次) 大野 紘枝 ①山形大学 ②テニス・音楽鑑賞・映画鑑賞	 初期研修医(1年次) 加藤 健一 ①東北大学 ②野球観戦・剣道	 初期研修医(1年次) 狩野龍之介 ①山形大学 ②野球観戦
 初期研修医(1年次) 佐藤 成 ①山形大学 ②硬式テニス・将棋	 初期研修医(1年次) 鈴木 康介 ①東北大学 ②テニス・読書	 初期研修医(1年次) 平野 れな ①山形大学 ②バドミントン	 初期研修医(1年次) 山口 諒子 ①山形大学 ②温泉巡り・ラーメン巡り・ヴァイオリン

転出者

H30
3/31~5/31
転出

新任地

日本海総合病院

内科	岡崎 幸治	東京北医療センター
内科	邨野 浩義	山形大学医学部附属病院
循環器内科	本田 晋太郎	仙台厚生病院
循環器内科	青野 智典	山形大学医学部附属病院
消化器内科	早坂 高志	今泉クリニック
消化器内科	渡邊 敏治	小国町立病院
精神科	米野 宏和	山形県立こころの医療センター
小児科	栗野 裕貴	山形大学医学部附属病院
外科	川村 一郎	山形大学医学部附属病院
外科	高橋 宏和	東北大学病院
外科	高森 聡	山形大学医学部附属病院
呼吸器外科	渡辺 勇	順天堂大学
整形外科	針生 光博	山形県立新庄病院
整形外科	平山 朋幸	山形県立新庄病院
整形外科	和根 紗奈	山形大学医学部附属病院
産婦人科	渡辺 翔太	山形大学医学部附属病院
産婦人科	堀川 正毅	山形大学医学部附属病院
泌尿器科	牛島 祐弥	山形大学医学部附属病院
泌尿器科	窪木 佳子	山形市立病院済生館
耳鼻咽喉・頭頸部外科	新川 恭平	山形県立中央病院
耳鼻咽喉・頭頸部外科	鎌田 淑恵	山形大学医学部附属病院
放射線科	小畑 裕子	山形大学医学部附属病院
初期研修医(2年次)	齋藤 大輝	東北大学病院
初期研修医(2年次)	土田 浩之	聖隷三方原病院
初期研修医(2年次)	土屋 匡央	山形大学医学部附属病院
初期研修医(2年次)	村上 成人	山形大学医学部附属病院
初期研修医(2年次)	高橋 鴻志	山形県立新庄病院
初期研修医(2年次)	田中 喬之	山形大学医学部附属病院
初期研修医(2年次)	中川 遼太	山形大学医学部附属病院
初期研修医(2年次)	渡部 拓也	埼玉医科大学総合医療センター
初期研修医(2年次)	中村 有為	山形大学医学部附属病院
歯科研修医	徳誠会 鎌倉大船歯科	
歯科研修医	光获会 お歯科	

日本海酒田リハビリテーション病院

リハビリテーション科 安藤志穂里 医療法人ひまわり会 札幌病院

平成30年地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 職員採用試験受験案内(平成31年4月採用)

1. 募集職種、採用予定人数及び受験資格

職 種	人 数	受 験 資 格
看護師 (または助産師)	40名 程度	昭和59年4月2日以降に生まれた方で、看護師免許(助産師の方は助産師免許も)を有する方、または平成31年5月末までに当該免許を取得する見込みの方

2. 試験期日及び試験会場

区 分	試 験 日	試験会場
一次試験	平成30年8月4日(土)	日本海総合病院
二次試験	平成30年8月26日(日)	

3. 受付期間及び受付時間

- (1) 受付期間 6月11日(月)から7月19日(木)(土曜・日曜、祝日を除く)
 (2) 受付時間 午前8時30分～午後5時15分
 ※郵送の場合も7月19日(木)午後5時15分まで必着のこと

4. 試験種目及び時間

区 分	試験種目	時 間
一次試験	受 付	8:30～ 8:50
	性 格 検 査	9:00～ 9:30
	専 門 試 験	9:50～10:50
二次試験	面 接 試 験	一次試験合格者に通知

5. 合格発表

一次試験合格発表	8月中旬	受験者全員に郵送で通知 日本海総合病院内に 合格者番号を掲示
最終合格発表	9月中旬	病院機構ホームページにも掲載

その他事項は病院機構ホームページ(<http://www.nihonkai-hos.jp/>)をご覧ください。

■担当 日本海総合病院総務課総務第2係 水越、富士村
TEL: 0234-26-2001(代表)

看護部

日本海総合病院

サマーセミナーを 開催します

対 象 専門学校1・2年生、大学1～3年生の
看護師・助産師志望の方

日 時 8月8日(水)9時～15時
(受付:8時30分～)

内 容 病棟体験(希望診療科)、院内見学
若手看護師との懇談会 など

持ち物 白衣・上履さ
※昼食は当院で用意します。

申し込み方法などは病院機構ホームページ (<http://www.nihonkai-hos.jp/>) をご覧ください。

表紙の

ひと・こ・と

あきほ保育園の子どもたち

あきほ保育園は病院職員の子どもたちが通う
院内保育園です。アットホームな雰囲気の中、約
30名の子どもたちが毎日元気いっぱい過ごし
ています。夜間も安心して勤務できるよ
う、24時間体制の
保育環境を整えて
おり、仕事も子育て
も頑張りたい職員を
サポートしています。



地方独立行政法人
山形県・酒田市病院機構

< 基本理念 >

1. 安心、信頼、高度な医療提供
2. 保健、医療、福祉の地域連携
3. 地域に貢献する病院経営

本誌へのご意見・感想をお聞かせください。

☎ 0234-26-2001(代表) 総務課施設係 広報誌担当まで
✉ soumu@nihonkai-hos.jp

日本海総合病院では広報誌以外にも情報発信を行っています!

f 臨床研修Facebook 公式ページ
www.facebook.com/nihonkaihos.kensyu

f 看護部Facebook 公式ページ
www.facebook.com/nihonkaihos.kango

🐦 日本海総合病院 Twitter 公式アカウント @nihonkai_hosp